

総 会 報 告

第26回総会

第26回日本白鳥の会総会は、1997年10月19日(日)に東京都新宿区高田馬場の大正セントラルホテルで開催された。

冒頭で、松井会長は、「昨年は心臓のバイパス手術をし、今年は腹部の手術をし、総会を東京で開催できなかったことを深くお詫びします。昭和56年から会長を引き受けて、皆さまに手伝っていただいて、なんとかか仕事ことができました。これからは後進に道を譲る時が来たと思っています。」と挨拶した。

議長に茨城県水戸市の菊池昶史さんを選出し、議事を進めた。

1. 平成8年度の収支決算と事業報告は、事務局の原案とおりに承認された。
2. 平成9年度の予算案と事業計画は、事務局の原案とおりに承認された。
3. レナ川流域のハクチョウの調査の結果報告。

北海道浜頓別町の山内昇さんが、「環境事業団の地球環境基金の補助金で、サハ共和国のレナ川流域のオオハクチョウの調査に行きましたが、予備知識が不十分で、満足な調査ができなかった。サハ共和国は日本の8倍の面積があり、レナ川は流域の長さが約4,500km、川幅が5kmから数十kmの大河で、ほとんどがタイガと永久凍土で覆われており、飛行機やヘリコプターで数百kmにわたって調査したが、残念ながら8羽のオオハクチョウが確認されたただけであった。レナ川流域のオオハクチョウは少ないと聞いてはいたが、それを実感して帰国した。」と報告した。

4. 役員改選については、現役員の任期は、来年3月31日までであるが、まだ任期半であり、次期会長選出まで現役員で会務を執行することを決めた。次期総会で会長候補者を会員全員で選ぶこととしたので、各位からの推薦をお待ちしています。
5. 事業報告のうち、次期研修会の開催地が決まっていないため、開催地決定を会長預かりとした。腹案として、北海道の濤沸湖、ウトナイ湖、洞爺湖・有珠湾の3か所を候補地としてあげ、本年12月までに決定し、会員に知らせることとした。
6. 団体維持会員制度を設けることにした。会の会費増をはかるため、日本白鳥の会に入会されている団体の会費を維持会員と同様に、5,000円以上とする。なお、団体の維持会員には会誌を2冊以上配布することにした。

このことについては、異議を唱える団地会員もおられることは十分承知しているが、会費の増収をはかるためとご理解いただきたい。異議のある方は、事務局までお知らせください。もし、問題があれば、今後の課題とする。

7. ハクチョウ類定時定点調査については、月の第2週目の午前10時の調査結果の報告をお願いしていたが、悪天候などで当日調査不能の場合は、第2週に一番近い日を調査日として調査・報告もらうことになった。また、調査時刻については、午前10時にこだわらず、ハクチョウ類を最大限把握できる時刻とすることにした。例えば、ハクチョウ類がねぐらにいる時に最大羽数をカウントしやすい場合には、ねぐらの調査をして、その結果を報告することにした。

8. IWRBの名称変更について、阿部学副会長から報告があった。IWRBは、この度「Wetland International」（国際湿地保全連合）と改称され、日本支部は「Wetland International-Japan」（国際湿地保全連合日本委員会）となった。会長は松井繁、常任委員は阿部学である。Wetland Internationalは、総本部のもとに、ヨーロッパ・アメリカ、アメリカ、アジア・太平洋の3地区組織が置かれているが、Wetland International-Japanはそれと同格のものと格付けされている。

総会の後に、研究発表が行われた。発表は次の2題である。

星子廉彰：レナ川流域のオオハクチョウ調査について（ビデオ）。

沢田ゆきの：世界のハクチョウ5種の繁殖地を訪ねて（スライド）。

第27回総会

第27回日本白鳥の会総会は、1998年11月1日(日)に東京都新宿区高田馬場の大正セントラルホテルで開催された。

会長挨拶のあと、菊池和史さんを議長に選出し、議事を進めた。

1. 平成9年度決算と事業の報告は原案通り承認された。
2. 平成10年度予算案と事業計画は原案通り承認された。事業計画の3大柱は研修会の開催、定時定点観察、会誌の発行である。定時定点観察のとりまとめは、これまでどおり菊池さんが担当することが了承された。
3. 役員改選。前年の総会で「次期総会で会長候補を全員で選ぶ」ことになっていたことをうけ、松井会長の推薦、総会における皆さんの賛成により、現在理事をつとめている藤巻裕蔵さんが会長に選出された。

また、理事のうち滋賀県の八田知昭さんより理事辞退の申し入れがあったため、この件について了解をいただき、新たに肥田嘉昭さん(湖北野鳥センター)が新理事に選出された。なお、それ以外の副会長、理事、監事は、任期どおりである。

4. 会則を次のように一部改訂し、松井会長には名誉会長に就任していただくことになった。

第4条 (2) 本会は名誉会長・名誉会員をおくことができる。

この会則は平成10(1998)年11月1日から施行する。(下線部が改訂部分)

5. 会長改選に伴い、事務局長も改選され、理事の山内昇さんが新事務局長に就任することになった。また、事務局が下記のとおり変更になった。

〒098-5792 浜頓別町日の出 浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館内

事務局の事務処理などでは小西敢さん(浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館)と神谷要さん(米子水鳥公園)に手伝っていただくことになった。

6. 今年度の研修会は来年1月30～31日に米子で開催の予定。
7. 松井名誉会長から、日本白鳥の会設立の背景、歴史に関する話があった(詳しくは、会誌の掲載の予定)
8. 阿部学副会長から、Wetland Internationalと本会の関係についての説明があった。

(詳しくは、会誌に掲載の予定)

午後は研究発表で、次の3題が発表された。

菊池昶史：100羽以上の白鳥飛来地

奥州三四郎：秋田県皆瀬川河畔の白鳥飛来状況

このほか、肥田嘉昭：世界湿地の日インびわ湖記念事業実施要項（案）の資料が配付された。

平成9(1997)年度事業報告

平成9年7月13日 日本野鳥と共同で、ロシア東北部で繁殖するオオハクチョウの保護のため、渡り追跡調査に藤巻裕蔵氏を団長に約2週間の調査に出発。

平成9年8月14日 会員・田畑敏夫氏逝去に対し生花をおくる。

平成9年9月13日 白鳥ニュース17号発行。

平成9年9月26日 名誉会員・相沢幸四郎氏の白寿のお祝いに祝電をおくる。

平成9年10月16日 第26回日本白鳥の会総会を開催。

平成9年12月20日 会誌「日本の白鳥」22号を発行。

平成9年12月24日 ハクチョウ類定時定点調査のお願い文書発送。

平成10年1月27日 国立図書館へ会誌「日本の白鳥」贈呈。

平成10年3月20日 ロシア北東部で繁殖するオオハクチョウの保護のための渡り追跡調査報告書発行。

平成10年3月7、8日 日本白鳥の会研修会を洞爺観光ホテルで開催。伊達市内に飛来するハクチョウを観察。研修会実施に当たっては、伊達市・山崎安紀さんに多大なるご協力をいただいた。研究発表は以下の4題である。

1. 谷岡隆：シジュウカラガンの静内越冬記録
2. 星子廉彰：レナ川のオオハクチョウ調査について
3. 山崎安紀：有珠・長流川のハクチョウについて
4. 小西敢：クッチャロ湖の標識ハクチョウについて

このほか、菊池昶史さんのまとめによるハクチョウ類定時定点調査記録の速報が配付された。

平成9(1997)年度決算報告

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	備考
会費収入	785,000	556,000	会費・寄付
会費外収入	9,000	48,656	会誌販売など
前年度繰越金	31,090	31,090	
合計	825,090	635,746	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
印刷事務費	350,000	24,300	会誌・ハガキ印刷
運賃通信費	100,000	127,470	会誌・事務連絡
消耗品費	1,000	441	封筒など
IWRB日本委員会負担金	100,000	0	
会議室使用料	55,000	84,000	会議室使用料
予備費	219,090	27,138	生花代・電報代
合 計	825,090	263,349	

収入の部	支出の部	次年度繰越金
635,746	263,349	372,397

第28回総会

第28回日本白鳥の会総会は、2000年3月4日(日)に青森県下田町の下田町町民交流センターで開催され、会員33名が出席した。これまでは、総会は秋に東京で開催されていましたが、諸般の事情で例年どおりに開催できず、研修会に先立って行われました。

総会ではまず会長挨拶のあと、菊池昶史さんを議長に選出し、議事を進めた。

1. 平成10年度決算と事業の報告は原案通り承認された。
2. 平成11年度予算案と事業計画は、誤植を訂正の上、ほぼ原案通り承認された。事業計画の3大柱は研修会の開催、定時定点観察、会誌の発行である。定時定点観察のとりまとめは、これまでどおり菊池昶史さんが担当することが了承された。
3. 会則第4条第3項に従い、新潟県の吉川吉枝さんが名誉会員へ推薦され、総会において承認された。
4. 会則第6条第2項に従い、新理事として、浜頓別事務局の小西敢さんと米子事務局の神谷要さんが藤巻会長によって推薦された。総会における参加者の賛成により、2名が新理事に選任された。なお、それ以外の役員改選は、任期どおりである。
5. 次期、研修会の開催地が、福島県福島市阿武隈川に決定し、開催予定は2001年1月14・15日となる。また、研修会開催地における準備をできるだけ早く進めることができるようにするため、今回から次々回の研修会の開催地も決めることについて皆さんの了承をいただいた。その結果、次々回の研修会の開催地は滋賀県湖北町水鳥公園と決まり、2002年初旬に開催されることとなった。
6. 新事務局の業務について、浜頓別事務局では、「事務連絡」と「会計」を担当し、米子事務局では「白鳥ニュース発行」と「会誌の原稿収集」等と分担して、当

たる事となった。

平成10(1998)年度事業報告

平成10年4月3日 環境事業団地球環境基金へロシア北東部で繁殖するオオハクチョウの保護のための渡り追跡調査報告書提出。

平成10年4月27日 上記報告書を会員に送付。

平成10年10月3日 第27回日本白鳥の会総会開催案内送付。

平成10年11月1日 第27回日本白鳥の会総会開催。

平成10年12月3日 第23回日本白鳥の会研修会開催案内送付。

平成11年1月13日 環境事業団地球環境基金に「日本白鳥渡来地目録の作成」で申請書提出。(結果は不採用)。

平成11年1月30-31日 第23回日本白鳥の会・米子水鳥公園合同研修会を米子コンベンションセンターで開催。特別講演1題と研究発表7題があった。

特別講演

藤巻裕蔵：ロシア・レナ川中流部でのハクチョウ類生息状況調査
研究発表

仁科久雄：滋賀県湖北町に飛来するハクチョウ類

山内昇・小西敢：クッチャロ湖におけるコハクチョウの渡来数について

菊池昶史：白鳥の会ハクチョウ類観察記録のとりまとめについて

目次俊夫：ロシア・コリマ低地でのコハクチョウ調査

脇坂英弥：出雲平野におけるコハクチョウの生息状況

山本良征：中海のハクチョウ

神谷 要：中海で行われた首輪標識

研修会参加者：石井光弘、市橋直視、遠山敏子、小関利孝、角田分、片岡智徳、門永哲朗、神谷要、川口仙太郎、菊池昶史、岸本勉、櫛田一夫、小西敢、佐久間拓城、竹中稔、田中一郎、田中秀子、土居克夫、中井恒峯、長野裕美子、長野義春、成田雅彦、西田恒子、仁科久雄、西村武司、野津登美子、萩原雅彦、藤巻裕蔵、古川博、細谷賢明、増田裕子、松井香里、松井繁、松本勝彦、松本正巳、村本祥子、目次俊夫、森茂晃、山崎歩、山崎智子、山根正敬、山中克子、山本良征、脇坂英弥。

平成10(1998)年度決算報告

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会費収入	667,000	689,655	会費・寄付
会費外収入	10,000	0	会誌販売など
前年度繰越金	372,397	372,397	
合 計	1,049,397	1,062,052	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
印刷事務費	414,300	422,000	会誌・ハガキ印刷
運賃通信費	60,000	55,960	会誌・事務連絡
消耗品費	10,000	8,711	封筒など
WI日本委員会負担金	200,000	200,000	H 9, 1 0 年度分
会議費	84,000	62,470	会議室使用料
予備費	281,097	17,262	総会弁当・電報代
合 計	1,049,397	766,403	

収入の部	支出の部	次年度繰越金
1,062,052	766,403	295,649

